



ふなはし

# 議会だより

No.14/6月議会号

平成28年7月29日発行



ふれあいを広げる  
私たちの公園  
はばたけ未来へ...

## 舟橋駅前公園



5月29日完成記念式典で植樹する子どもたち

● 舟橋駅前公園完成 .....	1
● 6月定例会一般質問 .....	2~6
議案等の審議結果、決議 .....	6



# 6月定例会 一般質問

# ここは どうなるの

**問** 村長4期目の出馬に向けて、決意と抱負はいかに！

**答** 「住んで良かった」と思えるまちの実現に向け、再度力を尽くす

森 弘 秋 議員



**問①** 次期村長選の出馬に向けて決意を伺う。

次期の村政を考える立場としては、常に、村民の目線に立って、村民の意見に耳を傾け、かつ、実行してもらいたい。このことへの期待を含め、村長の決意と抱負を伺いたい。

**答①村長** 平成17年に村長に就任して以来、村民が自信と誇りを持ち続けられる村づくりを進めてきた。

3期目を振り返ると、住みよい村づくりに関しては、平成25年度に富山県東部消防組合が発足し、翌年、上市消防署舟橋分遣所が開所され、安全・安心なまちづくりへの大きな一歩を踏み出した。

村史編さんについては、4年余の歳月を経て先般発刊し、村をより深く知っていただくために、村内の全戸へ配布した。

住民・地域・行政がともに推し進める協働型まちづくりについては、平成24年度に、心身ともに日本一健康な村を目指す「健康構想」

を策定し、村歌「ちっちゃな舟橋村」の制作・普及等を通して、住民同士のつながりの強化を図ってきた。平成25年度には環境総合整備計画を策定、27年度からは産学官金と住民が連携して「地方創生」に係る地方版人口ビジョンと総合戦略をとりまとめ、かつ子育て共助につながる宅地造成等のマスタープランづくりや公園活用事業を進めている。

当村の人口はここ数年横ばい状態で、村独自の推計によると、このままでは2060年には現在の3分の2までに減少し、急激な少子高齢化や税収の激減等、諸般の影響は免れないと推測されている。小規模な当村が持続するためには、住民同士のつながりは極めて重要である。「子育てしやすい環境づくり」をテーマに、住民同士の支えあいを産学官金連携で生み出し、

富山県全体に普及するよう先駆的に取り組んでいく。

子育て環境の整備については、英会話が一つの柱となる。ふなはし保育園や、子育て支援センターでは、既に英会話教室を開始しており、大変好評である。今後は小・中学校が1校ずつの環境を生かし、継続した英語学習が行えるよう進めていく。



保育園の英会話教室

また、子育て共助のまちづくりに向けた取り組みについては、村民・行政・民間企業等が互いに支え合い、村民一人一人がまちづくりの主役となり、「舟橋村に住んで良かった」と思える村の実現

に向けて、再度、粉骨碎身力を尽くしていく所存である。

**災害等の未然防止対策は万全か？**

**問②** 「災害は忘れた頃にやってくる。」とのことわざがある。今のご時世は、何が起きるかわからない。本場に「油断大敵」である。災害には、地震・水害・台風等多くのものがあ

る。近年では、熊本地震、豪雨・広島島の土砂崩れ、東北大地震そして津波等があり、近県では、能登半島地震、中越沖地震等があった。

これからも、舟橋村にいつどのような災害が発生するかわからない。想定外の災害が発生する可能性がある。

最も懸念するのは白岩川の氾濫で、昭和44年に舟橋村で起きた水害が記憶に残っている。

このことから、河川



の整備がなされているが、その状況は、白岩川本川、支川のいずれにおいても部分的である。

また、平成20年8月のゲリラ豪雨では、各用水が氾濫寸前だった。「特別擁護老人ホームふなはし荘」の裏側を流れる用水も、あと10cmも水位が上がれば氾濫だった。

昭和44年大洪水を検証し、対策が必要であると考え。いざという時の対応、避難場所の確保をどうするか？総じて全災害に対する点検が必要と考える。それらの普段の行動が、村民の災害に対する意識の高揚につながるかと確信する。

村は、村民に災害・防災に対する意識の高揚・周知をどう図るか？危機管理意識をどのように考えるか？



ふなはし荘に沿って流れる用水

**②生活環境課長**

村内では、昭和44年の8・11災害以降、大規模な災害は発生していないが、平成10・11年、平成20年の集中豪雨の際に、災害が村内の一部で発生している。

2級河川白岩川は、昭和44年の豪雨により、富山市水橋地区、舟橋村、上市町放土ヶ瀬地区、立山町泉地区が甚大な被害を受けたことから、県では白岩川改修整備計画に基づき、堤防線の見直しや川幅の拡幅等、抜本的な河川改修を進めている。

改修箇所は栃津川合流点から河口までの6.8kmで、総事業費は145億2600万円である。これまでに築堤・護岸、河口導流堤等の工事を終えており、平成27年度末の進捗率は、76.8%である。今後は、残りの護岸延長398m、橋梁2橋、鉄道橋1橋を順次改修していくと報告を受けているが、早期対応を要望していく。

一方、村では村地域防災計画に基づき、気象警報の発令時には、万一の事態に備え職員が庁舎に待機し、情報収集や危険箇所の巡視を行っている。

また、災害時の広報は、緊急情報告知システム、エリアメール等を活用すると同時に、広報車等による周知を行う。現在、150人3食分の食料品その他、毛布や土嚢袋等を備蓄している。

しかし、村民の自助意識の向上を図ることも大変重要であり、緊急持ち出し袋の準備等について、広報紙、ホームページやタウンミーティングで今後とも啓発していく。



白岩川の改修計画



**問** 自主防災組織の活性化を問う  
訓練や講習等の費用支援も検討していく

**川崎和夫 議員**



把握して災害に備え、地域の防災力を高めていくことが大事になってくる。

そのためには、日頃から災害に対する知識と心構えを身に着け、万全の対策を立てておく必要がある。

今回の熊本地震では多くの住宅に被害が発生した。舟橋村における公共の建物の耐震補強は完成している。

問題は昭和56年以前に建てられた住宅と一次避難施設である地区の公民館の耐震化をどう進めるかだ。

**問** 熊本地震の被災の状況を見ると、改めて日本は地震列島で、どこであっても自然災害にあり可能性があるかと痛感した。

そして改めて防災意識を高めていくことが大切であると考え。

災害には「備えが大切」であり、自分の住んでいる地域の状況を



消雪井戸利用型災害時消火栓・給水システム (東芦原団地 地区)



また自治会としても行政と一緒に公民館の耐震化を進める必要がある。

富山県の交付金事業で自主防災組織資機材整備事業として、毎年30万円の予算が防災対策費に計上されている。

村内の自主防災組織は、それほど活発に活動しているわけではないと思われる。

国重自治会自主防災会では、毎年実施の防災訓練を今までは村消防団の協力を得て消火器・消火栓等の操作法を主として実施してきた。

上市消防署舟橋分遣所ができ、常備消防に



耐震診断が必要と考えられる地区公民館

なったことで自主防災訓練も実践的で内容のあるものになってきたと感じている。

停滞している自主防災会の活性化のために、防災組織のリーダーを積極的に育成していく必要がある。

更新時期が近い村の備蓄品については、自主防災活動に活用してはどうか？

また、訓練に伴う実施経費の補助制度を作り、積極的に活動を支援していくようにしてはどうか？

### 答 総務課長

村地域防

災計画では、村内9地区の公民館を一次避難施設として定めているが、中には昭和56年以前に建てられたため現在の耐震基準を満たしていないものもある。このため、本村では平成24年に「舟橋村地区公民館耐震改修事業等補助金交付要綱」を制定し周知した。しかし、費用等の問題で活用が



自主防災組織による訓練 (国重地区)

なかつたため、地区公民館の耐震化については、今後も自治会へ働きかけていきたい。

災害時は「自分の身は自分で守る」という

自助意識が最も重要であり、各地区の自主防災組織の活性化が必要である。組織の活性化については、県と村の双方に資機材等の整備費に対する補助制度がある一方で、防災訓練等に要する経費に対する補助は、県の補助制度であった「地域連携防災訓練モデル事業」が平成27年度末で終了し、現在は、夜間に発生する水害、土砂災

害、津波を想定して行う「早期避難等訓練モデル事業」のみである。

しかし、今月5日に国重自治会自主防災会が実施されたように、分遣所や消防団の協力を得て、防災訓練や応急措置講習を開催している自治会もある。まずは各自自治会において、自主防災組織の重要性を再認識していただき、必要な資機材については補助制度を活用いただくよう、今後も自治会へ働きかけていきたい。

また、日頃から訓練等を行い、有事の際に備える事が重要であるため、資機材に要する費用のみでなく、訓練や講習等に要する費用支援についても、県内市町村の例等も参考に検討していく。



問 駅南駐車場の休日無料化を問う有効活用について検討していく

## 吉川 孝弘 議員



少しでも駐車料金収入を多くしたいところであるが、むしろ休日無料化し利用促進に努めてはどうか？

無料化により、例えば若者たちが気軽に公共交通を利用し、町のイベント等へ出かけたりにすることができ、「出会い・結婚支援の充実」のきっかけになる。

また、小学校や保育園でイベントがある場合も、無料駐車場があれば祖父母を気軽に呼んで、三世交代交流が一段深まるのではないかと？

問 舟橋駅の南側には、開設当時パークアンドライドが注目された舟橋駅南駐車場が整備されている。この敷地は、村が3人の地権者から借り受けているが、今年、土地賃貸借契約の一部の期限終了に伴い、村が敷地を買い上げる見通しとなった。駐車場の利用状況を見てみると、休日の利用がほとんどない。



良いキーワードになる  
のではないかと？

住民一人当たりの貸  
し出し冊数が日本一を  
誇る村立図書館の利用  
者も、休日を利用化す  
る事によって、時間を  
忘れてゆつたり本を読  
んだり、読み聞かせ等  
のイベントを親子で楽  
しむことが出来る。こ  
のような取り組みは、  
子育て支援・少子化対  
策の推進につながって  
いくものと思う。日本  
一の図書館を維持し、  
村民に教養とゆとりを  
持つてもらうために  
も、無料化にそれなり  
の価値が、見いだされ  
るのではないかと？

から、議会の審議や  
ウンミーンティングを  
経て、平成18年9月  
から実施した。

休日に駐車台数が少  
ないのは、パークアン  
ドライドの性質、車社  
会の生活様式及び立地  
特性によるもの考えて  
いる。

また現在、図書館や  
周辺施設において駐車  
場の無料化を求める  
ニーズはなく、小学校  
や保育園のイベントは  
開催頻度が少なく、現  
状の駐車場に対応でき  
ている。したがって、  
休日に駐車場を無料化  
しても、それほど変化  
は無いと考える。

性・受益者負担の観点  
から、議会の審議や  
ウンミーンティングを  
経て、平成18年9月  
から実施した。



舟橋駅南駐車場

答総務課長 駅南駐車

これらことから、  
当面、公平性・受益者  
負担の観点からも無料  
化する予定はないが、  
当該敷地は、駅周辺の  
優良な位置にあるた  
め、その有効活用につ  
いては、住民ニーズや  
諸計画を踏まえつつ、  
関係機関とも協議しな  
がら検討してまいりた  
い。

不審者対策の見解を問う  
学校や地域と連携し危機管理の  
徹底を図りたい

問

不審者対策の見解を問う  
学校や地域と連携し危機管理の  
徹底を図りたい

問

「ゾーン30」の導  
入を問う



田村 馨  
議員

とってきたのか？また  
更にもどのような対策を  
行うべきなのか、見解  
を問う。

答①教育長 子どもた  
ちを守る・学校を守る  
ことは、教育委員会の  
第一義的な使命であ  
り、小学校や中学校の  
年間教育計画の中に、  
学校安全計画を立て、  
交通安全指導や不審者  
対応、火災等に対する  
避難訓練等を定期的に  
実施することが義務付  
けられている。

問① 去る5月25日、  
村内を歩いていた女子  
児童に、不審者が「何  
年生？」と声をかける  
事案が発生した。

不審者対策で有効な  
のは、やはり「地域の  
目」。不審者情報が役  
場に寄せられた場合、  
保育園・小中学校やP  
TA・各自治会と、ど  
のように情報を共有  
し、どのような対策を

子ども安全管理をお  
願ひしている。  
不審者に対する手立  
てについて、学校では、  
学校危機管理マニュアル  
に従って迅速な対応  
に努めている。まず、  
正確な情報を収集し家  
庭訪問等をし、それを

基に、電話、メール、  
または文書で保護者、  
PTA、警察等関係機  
関へ緊急連絡及び協力  
を依頼し、原因の究明  
と予防対策等について  
再考し再発防止に努め  
ている。子どもたちが  
不利益をこうむること  
が決してないようにし  
なければならぬ。関  
係機関と情報を共有  
しながら、その都度協  
議を重ねて実施してい  
る。

想定外の事案が多々  
発生する昨今、危機管  
理に、これでよいとい  
うことはない。地域の  
安全を守るためには  
「地域の目」が重要で  
あり、寿会、巡視パト  
ロール、登下校時の危  
険箇所を指摘してくだ  
さる村民に感謝してい  
る。今後もさらに危機  
管理の徹底を図ってい  
く。



「ゾーン30」とは生  
活道路における歩行者  
等の安全な通行を確保  
する事を目的として、  
区域（ゾーン）を定め  
て時速30キロの速度規  
制を実施し、他の安全  
対策も必要に応じて組  
み合わせ、ゾーン内  
における速度抑制や、  
ゾーン内を抜け道とし  
て通行する行為の抑制  
等を図る対策である。  
村内でも、学校周辺  
や住宅地をスピードを  
出して通り抜けていく  
車両があり、対策を取  
るべき箇所があるので  
はないか？  
また新しい保育園や

「ゾーン30」の導  
入を問う  
② 全国で通学道路  
での事故等が相次いで  
発生しており、村でも  
定期的に道路の安全点  
検や交通安全の啓発活  
動等対策を講じている  
が、安全対策の一つと  
して、全国的に「ゾー  
ン30」が導入されてい  
る。



子育て支援住宅の建設も予定されている事から、整備を行っていくべきと思う。そこで、ゾーン30の推進に対する見解、整備に対する国庫補助や推進・整備に関する問題点等について問う。



導入が必要と思われる道路の1つ

**答②総務課長** ゾーン30は、警察庁が平成28年度末までに3000カ所の指定と整備を目指すしている。県内の平成27年末の指定か所は19カ所、上市警察署管内では立山町の1か所である。

本村でも、団地内を高速で通り抜けていく自動車に対する交通安全対策を求める要望が2つの自治会から出て

いる。ゾーン30は、この対策としては有効であると思われているが、ゾーン内での最高速度30キロの区域規制、路側帯の設置・幅と道路中央線の抹消を前提としており、最終的には道路が一車線化されることから、地域住民の生活に大きな影響を与えることとなるため、ゾーン内の住民の合意形成が必要となる。

また、区域規制標識及びゾーン専用のシンボルマーク入りの看板や路面表示を設置し、ゾーンの入り口を明確化する必要もあり、財政負担となってくる。国の補助金があるものの、補助対象は交通量、交通事故死傷率によって定められ、本村の場合には対象外となる。

これらのことから、現段階ではゾーン30の推進は困難である。

## 6月定例会

## 議案等の審議結果

本会議において、次の議案を全会一致で可決しました。

- ①専決処分の承認を求める件  
(平成27年度補正予算、税条例一部改正等)
- ②平成28年度一般会計補正予算  
(駅南駐車場土地購入費 1億6,325万円、高齢ドライバー交通安全教室開催委託料 10万円、村道改良工事費 791万円等)
- ③平成28年度舟橋村国民健康保険事業特別会計補正予算
- ④平成28年度舟橋村簡易水道事業特別会計補正予算
- ⑤村道の路線認定の件
- ⑥中新川広域行政事務組合規約の変更の件
- ⑦高齢者の交通死亡事故に関する決議
- ⑧安心・安全の医療・介護の実現と夜勤改善、大幅増員を求める意見書

### 【高齢者の交通死亡事故に関する決議】

悲惨な交通事故の根絶は、村民すべての願いである。

舟橋村においては、これまでも、警察や交通安全協会等の関係機関・団体と連携し、各種の交通安全対策を推進してきた結果、昨年の人身事故件数及び負傷者数は、10年前の平成17年と比較してほぼ半減しているが、超高齢社会の到来というかつて経験したことのない新たな時代を迎え、高齢者の交通死亡事故防止対策は、今後ますます厳しい状況となることが懸念される。

今一度交通安全の基本を再確認することや、高齢者に対する交通安全教室等を通じた交通ルールの普及啓発が重要である。また、高齢者を地域全体で見守る活動や高齢者に優しい交通環境づくりが必要である。

よって、本議会は、村を挙げた高齢者の交通死亡事故を防止する実効性のある取り組みを早急かつ強力に推進し、安全で安心な舟橋村の実現を期するものである。



あとかぎ

学童保育「ほのほのタイム」で、コマ回しに挑戦！なかなか回らない。しかし、学童の中でうまく御仁がいる。実にうまく回すのだ。約2m離れた直径約30cmのたらいの中に巧みになげ回すのだ。

30回も挑戦をしたかどうか。やっとコマは回ってくれた。「回ったぞー」うれしさの余り大声を！再度挑戦。コマは回ってくれない。コマはコロコロと遊びに行く。腕が悪いのか。コマが悪いのか？

懲りずに25回ぐらい挑戦した。が、回ったのが2回程度。

こんなもんか。人生と同じ。なかなか思うようにはならないものだ。

「どうしたもんじゃろの!!」

(森・記)

### 議会広報特別委員会

委員長	森 弘秋
副委員長	竹島 貴行
委員	前原 英石
委員	杉田 雅史

議会・議会だよりについて、みなさまのご意見・ご感想をお寄せください。

